



学校だより

～ ひびきあう心 かがやく笑顔 ふれあいの丘 斎藤分 ～



令和8年6月30日 7・8月号

横浜市立斎藤分小学校 校長 小笠原 洋平

～ 当たり前の日常に感謝～

校長 小笠原 洋平

昨年の今頃は、毎日が猛暑で、梅雨らしいしとしとした雨とはなかなか縁のない気候でした。降る雨といえば雷を伴う激しい雨が多く、この十数年で気候が大きく変わってきたことを感じていました。それが今年度は一転し、比較的涼しい日が続き、どこかほっとするような梅雨らしい雨の日も見られています。しかしながら、台風がこれまでにないほど日本列島に近づいている様子を見ると、やはり気候の変化を実感せずにはいられません。日々の過ごし方について、ご家庭でも話題にされていることもあるのではないのでしょうか。

さて、雷の音を聞くと、幼い頃に聞いたある言葉を思い出します。「雷が鳴ったらおへそを隠さないと、雷様に取りられる」というものです。どこか懐かしく、耳にされたことのある方も多いのではないのでしょうか。子どもの頃の私は、雷様に会ってみたいという好奇心から、あえてお腹を出して待ってみたこともありましたが、結局一度も会うことはできませんでした。

その後、中学生の頃でしょうか、理科の学習で寒冷前線について学び、雷や激しい雨の仕組みを知りました。そして、雷が鳴ると気温が下がることを知ったとき、あの言葉の意味がずっと心に落ちてきました。体を冷やさないように気をつけることを、子どもにも伝わる形で教えてくれていたのだと感じたのです。（また、身を低くして安全を確保するようだという意味があるとも言われています。）このような「迷信」と呼ばれる言葉の中にも、暮らしの知恵や子どもを思う優しさが込められているのだと感じ、改めて興味深く思いました。さらに、こうした言葉が世代を越えて受け継がれてきたことにも、深い意味があるのだと感じています。

科学技術が今ほど発達していなかった時代に生きた人々の知恵には、本当に驚かされます。私たちの毎日の生活は、多くの人々の努力や工夫の積み重ねによって支えられています。こうして考えてみると、何気なく過ごしている日常の一つ一つが、とてもありがたいものに感じられます。子どもたちにも、こうした文化・文明の発達はもちろんのこと、一緒に生活し、かかわりあうたくさんの仲間との何気ない日常へも感謝の気持ちをもって過ごしてほしいと願っています。

末筆ながら、6月25日（木）に行われたスクールゾーン対策協議会並びに今年度第1回学校運営協議会にご参加いただきました皆様に、心より感謝申し上げます。会の中では、放課後に地域の方が困っていた本校児童に声をかけてくださったというお話もありました。子どもにとって大きな安心につながったことと思いますし、地域の温かさを改めて感じる機会となりました。今後も、学校・保護者・地域・関係機関が力を合わせ、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思ひます。引き続き、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。